

科目名	技術者倫理	英語科目名	Ethics of Engineers	
開講年度・学期	平成27年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科2年	
授業形態	講義	必修 or 選択	必修	
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15+30)h	
担当教員	上野哲・松島隆裕	居室(もしくは所属)	講義棟2階	
電話	0285-20-2100	E-mail	tueno@oyama-ct.ac.jp	
授業の達成目標	授業達成目標との対応			
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件	
	1. 科学技術の発展過程と科学技術が現在直面する問題を技術史を踏まえて技術者の立場から説明できること。	⑥	E	d-4
	2. 企業に勤める技術者として直面する倫理的問題と技術者のあるべき姿を多面的総合的に説明できること。	①	D	b
3. 科学技術をめぐる問題の解決策について創造的に持論を構築できること。	①	D	a	
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法				
達成目標1及び3: 課題に対するレポート提出(1回)。 レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の条件を踏まえている。(20点) [課題内容理解] 課題の内容を理解している。(20点) [論理性] 論理的に記述されている。(20点) [独自性] 独創的な視点に基づいて論述を試みている。(20点) [現実性] 現実的な考察をおこなっている。(20点)				
達成目標2: 各ケースにおいて設定した設問に対する考察(事前学習レポート提出)。(7回) レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の条件を踏まえている。(5点) [課題内容理解] 課題の内容を理解している。(5点) [説得力] 論理的・現実的な考察を独自の視点でおこなっている。(5点)				
達成目標1及び3にかかわるレポート(1回・100点満点)および達成目標2にかかわるレポート(7回・15点×7回=105点満点)について、合計点が60%以上の場合、達成とする。				
評価方法				
第2・3・4・5・6・7・8講後に提出を課すレポートの成績及び第16講後に課すレポートの成績: 100%				
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間	
1. 技術者倫理と企業倫理(1)	ケースメソッドで倫理を考える		4	
2. 技術者倫理と企業倫理(2)	「あるコンビニエンスストアの現金違算」検討		4	
3. 技術者倫理と企業倫理(3)	「なぜ会社を辞めるのか?」検討		4	
4. 技術者倫理と企業倫理(4)	「ベンチャー電子工業株式会社」検討		4	
5. 技術者倫理と企業倫理(5)	「(株)花王のクイックルワイパー開発活動」検討		4	
6. 技術者倫理と企業倫理(6)	「青色LED訴訟・2004年200億円判決」検討		4	
7. 技術者倫理と企業倫理(7)	「イオン株式会社の人材マネジメント」検討		4	
8. 技術者倫理と企業倫理(8)	「青梅慶友病院と大塚宣夫」検討		4	
9. 日本のものづくりと職人の技	ものづくりの伝統について調べる		4	
10. 地域とともに生きる	地域の事例を学ぶ		4	
11. 工学の倫理綱領と倫理規定	工学各分野の倫理的取り組みを学ぶ		4	
12. 重大事故・失敗事例(1)	ダコマ橋、チェルノブイリについて学ぶ		4	
13. 重大事故・失敗事例(2)	チャレンジャー号事故に学ぶ		4	
14. 重大事故・失敗事例(3)	福知山線事故について学ぶ		4	
15. 重大事故・失敗事例(4)	食の安全、偽装・リコール問題について学ぶ		4	
16. どのような技術者になるか	あるべき技術者としての自己像を描く		4	
自学自習時間合計			64	
キーワード	技術者, 倫理, 責任, 安全, 事故, 技術と技能			
教科書	前半8講は慶應義塾大学ビジネススクール発行のケース教材を使用する。			
参考書	松島隆裕編『技術者倫理』(学術図書出版社)。他の文献は必要に応じて適宜紹介する。			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	哲学, 歴史学, 人間と科学I/II, 技術論			
現学年の関連科目				
次年度以降の関連科目				
連絡事項				
シラバスの内容に変更があった場合は受講者に対して速やかに説明する。				
シラバス作成年月日	平成27(2015)年2月25日			